

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502199		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北海ハウス(1Fさくら)		
所在地	札幌市白石区北郷7条3丁目8番12号		
自己評価作成日	令和元 年10月18日	評価結果市町村受理日	令和2 年1月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170502199-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	令和元年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営理念である「笑顔で 明るく やさしく」を基本に、毎朝唱和しながら、笑顔を心がけています。利用者様の残存能力を發揮して頂きながら、一人ひとりの力に合わせた役割や楽しみを見つけ、職員と一緒に助け合い生活しています。又、一番の楽しみは食事となっており、季節の旬な食材を取り入れた献立作りや食事の支度、片付けは毎日の日課となっています。月に何度かのホームパーティーでは、利用者様同士が楽しく交流出来る場となり、恒例行事となっております。ホーム開設から16年経過し利用者様もお歳を重ねられ介護度も重度化しており、一人ひとりの生活リズムに合わせた個別ケアの対応となっております。些細な刺激にも気を付けながら心身共に明日を穏やかに迎えられるように支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は鉄筋コンクリート造3階建て3ユニットで屋上には菜園を有している。JR白石駅、道央道札幌・北郷ICなど車で数分、バス停からも近く交通の便が良い場所に立地している。代表者は長い間町内会役員をすることで地域に根ざした活動を担っており、災害訓練でも消防団員の協力などを築いている。地域住民とは相互の行事等で交流する機会があり、また、保育園児が毎年定期的に訪れて、利用者と一緒にカルタや折り紙などを楽しんでいる。高齢化に伴い利用者全員での外出は難しいが、その分、居室や居間で利用者に寄り添う時間を大切にしている。また、利用者の持てる力を發揮出来る場面作りに努め、日課として利用者は食器拭きや洗濯物たたみ、雑巾縫いこいそしんでいる。開所17年を迎えるが、10年以上勤続している職員がユニット長としてケアに努める等利用者が安心できる環境にある。代表者は多くの福祉施設を運営し、隣接した建物では先にディサービスを運営していたが現在は「障害福祉サービス事業」としての準備が整い近々開所する予定である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「笑顔で明るくやさしく」を朝の申し送り時に唱和、共有しサービスの提供時も意識し行っている。	理念は玄関ホールに掲示している。職員は朝夕の申し送りのときに唱和している。また、パンフレットにはケアの方針を明記しているが、各ユニットの利用者状況が違うためにユニット毎のケアに対する理念も考慮していく。	ユニット毎に利用者の状況や介護度、認知度も違ってくるために、事業所理念を基にユニット毎の理念を掲げて日常のケアの実践に結び付けていく事を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主が自ら町内会役員となり、町内会の行事に参加出来るようになっている。又、隣のマンションの方より時々差し入れ等があり、気にかけて頂いている。	運営法人の代表者は町内の青年部長として活動し、町内の関わり合いが強い。町内会行事の祭りで子供神輿が立ち寄りたりしている。また、町内住民からは自慢の漬物の提供や敬老会の招待など交流関係を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時には、町内会の民生委員の方々より地域の高齢者の実態についてのお話を伺ったり相談等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホーム運営や取り組みを報告し、サービスの向上に活かしている。	町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員などが出席して年6回開催している。運営状況、行事報告や予定、地域包括センター職員からの広報の案内や情報の発表があり、意見や情報を得て、サービス向上に活かしている。町内会役員とはお祭りの行事内容など意見交換をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市の管理者会に参加し、情報収集を行い、運営上の不明点は、直接担当職員に確認を行っている。	白石区のグループホーム管理者会議が年4回開催され、研修会の案内や情報を得ている。行政担当者と密に連絡を取り合い生活保護の関係書類などの申請や更新手続きで分からないことは電話や部署を訪れ指導や助言を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の理念と方針を掲げ、スタッフ一同我がや不快感のないケアを目指し取り組んでいる。	「身体拘束等適正化委員会」を年4回開催するようにしている。行動抑制の言葉やセンサーは使わないケアを実践し、無断外出がある場合は職員の見守りと施錠で工夫している。不審者の安全対策のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会で学び、日々のケアでは、スタッフ同士言葉遣いなど、気になった時は、その場で注意し合っている。		

グループホーム北海ハウス(1Fさくら)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修会に参加し、現状の制度を学んでいるが、現状では活用したい方がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、相手の方の立場でわかり易い言葉で説明し、不安な事や疑問点等を確認しやすいように導き、理解・納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様とは、日常生活の中から意見・要望をお聞きし、御家族様とは、来訪時に意見交換を行い運営に協力して頂いている。	利用者とは日常の関わりや家族の来所時の会話から要望や意見を汲み取るように努め、出来るものは直ちに実践している。申し送り時に情報を発表し職員で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者とは2ヶ月に一度運営会議を行い、職員の意見要望等を伝えている。	管理者は定例会議で職員が自由に発言する機会を設け、日常業務でも話し易い環境を作っている。代表は2ヶ月毎に開催する法人会議に出席し職員から出された意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	国の労働基準に合わせ、働き方改革を遵守し就業規則を都度整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルに応じた外部研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域管理者会にて、ネットワークづくりや勉強会を通じて交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わったという事で不安な状態にいる事を特に意識し、本人の訴えや要望を聞き入れながら共に信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に御家族の要望を伺い、どのように暮らして欲しいのか等聞き入れ、関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報及び、その時の状態を含めながら、出来る事、出来ない事を見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護される立場に立って本人の訴え等を傾聴し、食卓を一緒に囲みながら関係を築き支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら密にやり取りながら協力し合い、共に本人を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類縁者等の馴染みの人にはゆっくり面会が出来る環境を作り、関係が途切れない様に支援している。	友人や知人の来訪があった場合は、居室でゆっくりできるように配慮している。2か月に1回の訪問美容があり、利用者とは馴染みの関係を継続する様支援し、墓参りや正月、お盆などは家族の協力を得ながら馴染みの関係が途切れないようにしている。。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前・午後と皆で集まる時間を設け、会話を楽しめる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は必要に応じ、相談・支援を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望をお聞きし、上手く言葉で表出できない方にも意に沿えるように努めている。	日常の会話や食事時、入浴時に思いや意向を把握し、得た情報は職員で共有している。また、新たに得た思いや意向については家族に確認を行い介護日記に記録し職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に得た情報や、入居されてからの会話の中からくみ取り今迄の生活を継続できるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	温度板や介護記録を活用し、一人ひとりの生活リズムの把握に努め個別ケアを行っている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なフロア会議や日々のケアの中でスタッフ間で情報を共有しながら、本人・ご家族のお話を聞き、都度介護計画の見直しを行っている。	計画作成者は職員の情報、介護記録、本人や家族の意向を反映させた短期6ヶ月、長期1年の介護計画を作成して家族に説明し同意印を得ている。モニタリングは全員で行い状況に変化が有る時は現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護支援経過に記録し、日々の情報の共有化をしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに応じたサービスができる様に取り組み、生活のペースが変わられた方には、その方の時間に合わせたサービスを提供している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事に参加したり、訪問理美容・介護タクシー等を利用しながら暮らしの支援をしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週に來られる往診医には、状態を報告したり本人自ら相談したりと関係を深め、他科受診は、御家族の協力を得ながら受診されている。	かかりつけ医は利用者本意とし、協力医は隔週毎に訪問診療で健康管理を実施している。夜間を含む24時間体制では主治医や医療機関と連絡取り合い往診を含め主治医の指導を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院の看護師とは、受診・往診の手配や相談等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ADL等の情報を提供し早期に退院し受け入れられるように相談や情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しつつあるときは、早い段階で御家族と医師とカンファレンスを行い説明し、支援している。	入所時に「重度化した場合の対応方針」の書面を説明し同意を得ている。利用者の状況の変化には早い段階で家族に知らせ、主事医と相談しながら入院手続きや事業所で出来る範囲でのケアを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故のマニュアルを備え、全職員が実践できるように研修や勉強会を行い情報を共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回災害を想定した避難訓練を行ない、地域の方にも協力して頂いている。	年2回の避難訓練(日中と夜間想定)を実施している。訓練では運営推進会議を通じて消防団との連携を深めている。胆振東部地震のブラックアウト時の経験を通してカセットコンロ、石油ストーブ、非常用発電機を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いに気を付け、プライバシーに配慮しながら対応している。	利用者の尊厳を守り誇りを傷つけないケアに努めている。特に言葉遣いについては、目上の人として敬い慣れから来る不適切な言葉があった場合はその都度職員間で注意をして話し合うようにしている。氏名や写真掲載については個人情報やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話や様子などから汲み取るように努め、思いを表出できるよう傾聴し、本人の希望に沿えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしができる様、個々のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	場所・季節にあった身だしなみに気を付けるように支援している。		

グループホーム北海ハウス(1Fさくら)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しめる様に、献立を考えながら提供し、時には食べたいものを聞きながら食事を提供している。	食事メニューは各ユニットで決め、誕生日もユニット別でケーキや好きなもので楽しんでいいる。外食、バイキング(希望を聞き数種類を盛り付け)などを工夫して食事を楽しめるよう実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を把握し、その日の状態に応じ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の洗口や、毎食後の口腔ケアの声掛けや見守りを行い、支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自力にて排泄出来る様に声掛けを行い支援している。	排泄チェック表をもとにパターンを把握して、トイレ誘導を行なっている。リハパン、布パンツ、パッドサイズなど状況に合わせて排泄用品で対応し、利用者の体調など状況に合わせてポータブルトイレも使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘をしないように、食べ物・飲み物に気を付け予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず、その人の体調に合わせて何時でも入浴が出来る様に支援している。	週3回の入浴を基本としているが日時、回数は利用者の要望に沿うようタイミングを合わせるように努めている。同姓介助を基本とし状況に応じて2人介助の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるように、日中の休息時間を大事にし、生活のリズムを整えられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬状態を熟知し、症状の変化があった時には、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた役割を持っていただき、気分転換には散歩に行ったりおやつを買いに楽しみ事を支援している。		

グループホーム北海ハウス(1Fさくら)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には外出は出来ていないが、御家族の協力の下にて出かけたり、ご本人の誕生日等特別な日には外出出来る様に支援している。	高齢化により外出を望まなくなってきたり体力的に屋上に出る機会も少なくなっている。事業所の車を利用してミニドライブを行い少しでも外出できるようにしたり、行事として動物園を訪れる等支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方も居られるが、欲しいものは、いつでも買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方とお話したいときは、何時でも電話を出来る様に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所はゆったりと過ごせる様にテーブルや椅子の配置に気を付け、室温調整や刺激となることに気を付けている。	居間兼食堂はテーブル、イス、ソファなどゆとりを持って配置している。24時間換気システムを採用し一年中快適な温度管理をしている。壁には多くのものを飾らず質素で落ち着いた環境を作り、利用者はゆったりと寛げるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思いおもいに過ごせる様にテーブルや椅子を配置し、気の合った同志と一緒にいられるように居場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を持ってきてもらい、タンス等の配置は災害等発生時危険でない様に相談しながら、心地よく生活できるようにしている。	ナースコール、パネル暖房、テレビ配線が備わっている。利用者の使い慣れたベッド、テレビ、整理タンスや仏壇、椅子などを持ち込み、家族の写真や利用者好みの物を持ち込み職員は居心地の良い安心できる居室となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの居室前には、メモリアルボックスを設置し、自身の部屋とわかるようにしている。		